

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
精神看護学実習Ⅱ(直接ケア実習)	2	前期	4	実習 180時間
担当教員	田中美恵子、中島洋一			
授業概要	基盤分野、ならびに精神看護学特論Ⅰ～Ⅴ、精神看護学演習Ⅰ～Ⅲの学習をもとに、CNSの役割と機能を学習し、専門看護師としての実践能力の基礎を養う。実習Ⅱでは、特に直接ケアの能力の向上に焦点を当てる。精神科診断・治療実習の内容も含めるものとする。			
到達目標	精神科医療施設において、直接的看護介入を実施し、スーパービジョンを受けることで、ケース理解を深め、提供した看護介入を評価することで、より専門的な高度看護実践能力を習得する。			
履修条件	精神看護学特論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、実習Ⅰを履修済みのこと			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者を2名程度受け持ち、精神症状の査定、精神力動の査定、精神療法的関係づくりを通して、直接的看護介入を実施する。 2. 病棟において定期的にカンファレンスを実施し、病棟スタッフからケアに対する評価を得るとともに、看護チーム、医療チームとの調整・連携を行う。必要に応じて、プライマリーナース等へコンサルテーションを行う。 3. 提供した看護介入に対し、教員または臨床指導者(CNS)からスーパービジョンを受け、看護介入の意味を精神療法的な観点から踏まえ考察する。また実施した看護をカンファレンス等の場を通して伝え、継続看護につなげるようにする。 4. 実習病棟または病院において参加観察を行い、病棟内力動を査定しながら、病棟カンファレンス等の場を通して病棟内力動に介入する。 5. 学内において、事例のケースプレゼンテーションを行い、教員および他の学生とのディスカッションを通して、評価を行う。その際、学生は交代で司会を実施し、事例検討の進行について体験的に学習する。 <p>*詳細は後日、オリエンテーション時に説明する。</p>			
教科書	特に指定せず。			
参考書	宇佐美しおり、野末聖香編：精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会、2009.			
評価方法・基準	実習・カンファレンスへの参加度30%、レポート70%によって、総合的に評価する。			
事前・事後学習	これまでの学修を再度確認して深めておくこと。自己の課題について明確にしておくこと。事後は実習の振り返りを行い、今後に向けての課題を明らかにすること。			
備考	授業場所：東京都立松沢病院 実習場所：東京都立松沢病院 実習期間：原則として、4月～5月の間の4週間(4日/週×4週間：16日間)1限～4限			